

2021 年度（対象年度：2020） 自己点検・評価シート

基準 7 学生支援

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（委員会案）において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
702①	退学者や休学者の状況の共有や、単位僅少者指導に資する情報項目の精査、収集及び共有

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果（委員会案）における指摘事項>

※認証評価結果（委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。 ①学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者及び休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
702① 「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針）」に基づき、学生の修学に関する適切な支援をおこなうため、2016年度に、退学者や単位僅少者の対応方法に関して、各学部宛に調査依頼し確認を行った [702a]。また、各学部からの回答を踏まえ、退学者減少に向けた全学的な取り組みについて、第10回教務会議（2017年1月13日開催）において審議した結果、初年次からの単位僅少者指導の全学的な取り組みの検討については、各学部が主体的に取り組むこととなった [702b,c,d,e,f,g]。 現在、各学部では、単位僅少者指導の実施時期や回数を改善するなど、学生個々の状況に応じた指導や助言が

おこなえるよう取り組みを続けている。

このような状況を踏まえ、2019年度には学部長懇談会（2019.4.18）にて、GPA制度の活用にかかる懇談を行い、その中で各学部が行う単位僅少者指導の取り組みについて意見交換し、GPAを活用した修学支援について検討を行った〔702h〕。

その他、障がい学生支援室と各学部が連携して、授業における配慮の必要な学生に対して、学部長から授業担当教員へ「学生への教学上の配慮について」の依頼を行っている。

702① 2020年度前期は、新型コロナウイルス感染拡大による入構制限等により、当該学期の授業にかんして、オンライン授業の実施となり、オンライン授業で用いる基本ツールとして『manaba course』を活用し、授業運営を行った。各学生が円滑にオンライン授業を受講できるよう、『manaba course』のアクセス状況を各学部教務課に提供し、未アクセス者に対してのフォローアップを行った。また、2020年度前期のオンライン授業実施による学修状況について、全学的に把握を行い、学生を対象として「オンライン授業における学習状況調査」を実施し、その結果については、2020年度第2回学修支援教育開発センター会議（2020.6.19開催）、2020年度第2回全学教学政策会議（2020.7.30）で報告・共有した。また、新入生（1年次）の学修状況についても、2020年度前期時点でのGPA・修得単位数の分析等を行い、2020年度第3回全学教学政策会議（2020.10.08開催）および2020年度第1回オンライン教育検討会議（2020.10.09開催）において報告・共有を行った。

長所・特色《箇条書き》＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 ＊伸長すべき点、改善すべき点	
702	各学部における取り組みの成果の共有
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
702①	障がい学生支援室と各学部が連携して、授業における配慮の必要な学生に対して、学部長から授業担当教員へ「学生の教学上の配慮について」の依頼を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
702①	退学者や休学者の情報の共有や、単位僅少者指導に資する情報項目の精査、収集及び共有

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
702	a	学部における退学者及び単位僅少者の対応方法に関する調査について（依頼）
702	b	退学者減少に向けた全学的な取り組みについて（提案）
702	c	各学部における単位僅少者指導状況と基準
702	d	2016年度 学部における退学者及び単位僅少者の対応方法に関する調査結果（各学部回答一覧）
702	e	【参考】退学者数の推移（在籍者数に占める退学者数の割合）
702	f	【参考】2012年度入学生の退学者数と退学率
702	g	2016年度 第10回教務会議 議事録（抜粋）
702	h	学部長懇談会（2019.4.18）資料＜抜粋＞
702	i	2020年度第2回全学教学政策会議（2021.07.30）資料（抜粋）
702	j	2020年度第1回オンライン教育検討会議（2021.10.09）資料（抜粋）

Ⅱ. 評価結果

総評
2020 年度は、コロナ禍の影響を受け、『manaba course』を活用したオンライン授業の実施となった。 学生支援の一環として、学生の『manaba course』へのアクセス状況を調査した。調査結果は、各学部教務課に提供し、未アクセス者（学生）を対象にオンライン授業の受講に関するフォローアップを実施した。 また、全学生を対象とした「オンライン授業における学習状況調査」を実施し学修状況の把握に努めた。調査結果は、2020 年度第 2 回学修支援教育開発センター会議（2020.6.19 開催）、2020 年度第 2 回全学教学政策会議（2020.7.30）で報告・共有した。 新入生（1 年次）の学修状況についても、2020 年度前期時点での GPA・修得単位数の分析等を行い、2020 年度第 3 回全学教学政策会議（2020.10.08 開催）および 2020 年度第 1 回オンライン教育検討会議（2020.10.09 開催）において報告・共有を行った。 以上のことから、コロナ禍においても状況に応じた適切な学生支援策を実施していると評価できる。 なお、単位僅少者指導については、各学部が実施時期や回数を改善するなど、学生個々の状況に応じた指導や助言を行なえるよう取組を続けている。今後、留年者数や退学者数に良い影響を与えることが期待される。
長所・特色《箇条書き》
コロナ禍においても、「オンライン授業における学習状況調査」の実施など、状況に応じた適切な学生支援策を実施していると評価できる。
課題事項《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載